

翻 訳

彭利貞著

現代中国語情態動詞の意味体系

——その単義性と多義性—— (2)

薛 鳴 (訳)

【解題】

本稿は彭利貞 (2007) 『中国語モダリティ研究』 (原題《現代汉语情态研究》, 中国社会科学出版社) の第二章の第三節を翻訳したものである¹⁾。著者は浙江大学人文学院中国語言文学系教授。本書は復旦大学中文系中国語学専攻の博士論文を加筆したもので、シリーズ「言語と認知科学」(全8巻)の中の一冊である。472頁に及ぶ本書は六章から構成されている。

第一章「情態の意味体系」はモダリティについて先行研究を踏まえながら、論理学と言語学の立場からモダリティを認識のモダリティ、道義的モダリティ、動力的モダリティに分けることの合理性を論じた。第二章の「中国語情態動詞の表すモダリティ」は先行研究を検討し直し、モダリティを表す主要手段である「情態動詞」について、その名称、位置付け、機能、分類の基準などから考察し、「動詞—情態動詞—副詞」という連続体の仮説を提起した。第三章「情態と情状」は動詞の情状(性状)的特徴(静態動詞か動態動詞か)が多義的情態動詞と共起したときの意味解読に与える影響を考察した。第四章「情態と体」はモダリティとアスペクトの関係、主にアスペクトとの共起関係を分析した。第五章「情態と否定」は否定がモダリティに与える影響を分析し、情態否定の相補現象や主に“没”による外部否定と内部否定及び二重否定などの情態動詞の解釈への制約を考察した。第六章「情態動詞の共起」は情態動詞の共起が多義的情態動詞の意味解読に与える影響について検討した。

中国語ではモダリティ表現を担う一類の語を英語に倣って助動詞とする言い方や意味から「能願動詞」とする言い方が主流であったが、のちにモダリティをまさに「心情」と「態度」を一つにして“情态”という語が使われ始めるようになった。本書の著者もそれを支持しモダリティを表す一群の語を動詞と見なし、それを“情态动词”としている。

本篇の翻訳に際して、モダリティ動詞を表す“情态动词”という用語をそのまま「情態動詞」とするが、用語として使うとき以外の“情态”には「モダリティ」を用いる。本篇に挙げられる多くの文献はこの訳文の参考文献として挙げることはせず、原著の参考文献で確認されたい。なお、それらの文献の著者名は日本語の常用漢字にない漢字は中国語の簡体字を使

用したため、統一性を図るためにすべて原書のままの簡体字を使用している。

本書は情態動詞を全面的且つ体系的に考察した価値ある研究書である。同誌前月号（40号）に続き第二章の第三節「中国語情態動詞の意味的系統」の後半を翻訳したものである。そのため、文中の番号は40号からの通し番号になっている。

現代中国語情態動詞の意味体系 ——その単義性と多義性——

2.2.6 “会”

“会”は動力的モダリティの[能力]、道義的モダリティの[承諾]（約束）、認知的モダリティの[蓋然性]を表すことができる。

まず、“会”の動力的モダリティについて見てみよう。

“会”は動力的モダリティの「能力」を表すことができる。汤廷池（1976）では、“会”のこのような意味を「知能、技能、体能などの面の能力」としてまとめ、「能力の“会”」としている。一方、吕叔湘（1986: 244）は“会”の能力義を「やり方を知っている、またはあることをするだけの能力を持っている」と、「あることをするのに長けている」の二つに分けている。本稿ではその二つの意味に根本的な違いがないと考えている。その二種類の「能力を表す“会”」は統語的にも同じである。例えば、否定はいずれも“不会”である、その前には“很、真、最”などの程度副詞を付けることができる、などが挙げられる。周小兵（1989）ではその種の“会”を「何をするか分かること、何ができるか分かること」としている。次の文はいずれも[能力]を表す“会”である。

- (105) 以前他不怎么会说普通话，现在会（说）了。（吕叔湘用例）
彼は以前は共通語がそれほどできなかったが、今はできるようになった。
- (106) 你会不会唱这个歌？—— 会（同上）
あなたはこの歌が歌えますか。—— はい。
- (107) 还是你会说话。（王朔《一点儿正经没有》）
やはり君の方が話が上手だ（口がうまい）。
- (108) 中国人最会喝茶。（老舍《二马》）
中国人がお茶の飲み方が最もうまい。
- (109) 你会吐大烟圈么？（王朔《动物凶猛》）
あなたはたばこの煙で輪を作ることができますか。

(105)～(109)の“会”の意味はいずれも主語の技能を表す。例えば、“说普通话”の技能，“唱这个歌”の技能，“喝茶”の技能，“吐大烟圈”の技能などである。

次に“会”の道義的モダリティを見てみよう。

今までの先行研究では、一般的に“会”は[能力]と[蓋然性]の二つの意味しかないとしている。前者は動力的モダリティで、後者は認識的モダリティである。黄郁纯(1999: 53)では、“会”には個人的道義と約束という、三つ目の意味があるとする。すなわち、「話し手があることの発生と必然性を保証している」とし、次の例文を挙げる。

(110) 你等着看吧，我们会考第一名的。

楽しみにしてみるといい。試験で必ず一位を取ってみせる。

(111) (我保证)你这样会感冒的。

そのようでは風邪を引くよ。

しかし、一つ目の例文は確かに「保証」の意味があるが、二つ目の“会”の意味はやはり[蓋然性]であり、話し手が客観的モダリティの角度から“感冒”の極めて高い可能性について推断していると考ええる。

谢佳玲(2002: 89)は“会”のこのような「約束」の意味を「保証的用法」としながら、“会”自体は必ずしも保証の意味が含まれていないとして、「保証の意味は予測の意味の一種の派生に過ぎない」と考えている。なぜなら、“会”は単純に予測の意味を表しているのか、それとも語気のより強い保証の口調を表しているのか、判断しかねることがあるからと考えている。

本稿では、“会”の三つ目のモダリティ、即ち、「約束」の意味は確かに存在していると考ええる。それは話し手があることが真になることを約束する、つまり自分から進んで[義務]を負うことを表すことから、道義的モダリティに属していると考ええる。

次の“会”は、今までの研究では一般的に“可能”を表す“会”であるとされているが、下記の例文の“会”は明らかに話し手の推理の過程、即ち、話し手がそれらの文に用いられる“会”は、認識的モダリティを表すものではなく、事件が真になることを[約束]するのである。即ち、話し手が自分の道義的力でその文の表す事件が未来において実現することを保証すると言っていい。“会”のこのような意味をここでは[約束]とする。話し手が自らある種の[義務]を負うのである。

(112) 你忘了，我说过我会保护你！（刘恒《白涡》）

忘れたか。僕は君を守ると言っていたことを。

(113) 我会证明的。（同上）

僕は必ず証明する。

(114) 我会让你平静的。（同上）

僕は必ず君に平静を取り戻してあげる。

- (115) 我会小心的……失去你我可受不了。(同上)

必ず気を付けるから……君を失うなんて考えられない。

- (116) 你会不会跑出北平去，替国家做点事呢？(老舍《四世同堂》)

きみ、北平を出てお国のために何かできないか？

(112)～(116)の“会”は話し手が事件の[蓋然性]についての判断を表すものではない。

(112)では話し手が“我会保护你”と，“会”を使って“我保护你”を約束している。(113)は“我证明”を約束している。(114)と(115)はそれぞれ聴き手に対して“让你平静”，“小心”になるように働きかけることを保証している。一方，(116)は聴き手が“跑出北平，替国家做点事”を約束することを望んでいる。これらの文のいずれの“会”も話し手が事件の発生に対する[蓋然]的な判断をしているという意味ではない。

最後に“会”の認識的モダリティについて論じる。

“会”の認識的モダリティについて比較的一致した見方がある。一般的には“会”は[能力]を表す以外，“可能”(可能性)の意味も表す。汤廷池(1976)では認識的モダリティを表す“会”を“预断的会”(「予測の“会”」)と名付け，「事件発生の可能性について判断を行なうことを表す」と考えている。吕叔湘(1980: 245)は，その意味の“会”を“有可能”(可能性がある)と説明したうえ，「普通，未来においての可能性を表すが，過去と現在のものを表すこともできる」としている。しかし，“会”の表す可能性の度合いについては，郭昭军(2003)では，異なる見方を示している。氏は“可能”(可能性)を表す“会”と“可能”の差は明らかであり，その中で，“会”の表す可能性は“可能”のそれよりもずっと高いという点を挙げて，“会”の可能性の度合いは“极可能”(極めて可能性はある)よりも高いと考えている。以上を総合して，ここでは“会”の表す認識的モダリティを[可能]と[必然]の間の[蓋然]と位置付け，極めて高い可能性を表すと考える。以下の例文の“会”はいずれも[蓋然性]という認識的モダリティを表すものである。

- (117) 将来总场选拔，肯定会有你。(阿城《棋王》)

今後の決勝戦にはきっと君が残るよ。

- (118) 他会不会找个没人的地方……我的意思是，他会不会把你妈给扔了？

(刘恒《贫嘴张大民的幸福生活》)

彼は誰もいないところで……，つまり，彼はお母さんを捨ててしまいはしないか。

- (119) 他没想到自己会如此镇静。(刘恒《黑的雪》)

彼は我ながらにこんなに落ち着いていられるとは思わなかった。

- (120) 现在他不会在家。(吕叔湘用例)

今，彼は家にはいるはずがない。

- (121) 要是在往日，他会要她们重报的。(毕淑敏《补天石》)
いつもなら、彼は彼女たちに始めからやり直すことを要求していたに違いない。
- (122) 他怎么会肯附逆呢？(老舍《四世同堂》)
彼が折れることはあり得ない。(彼はどのように折れることができようか。)
- (117)～(122)の“会”は、いずれも話し手が事件の事実性または事実になる可能性が極めて高いという〔蓋然性〕の認識的モダリティを表す。

上述したように、情態動詞の“会”は、動力的モダリティの〔能力〕、道義的モダリティの〔義務〕と〔約束〕、そして認識的モダリティの〔蓋然性〕の三種類のモダリティを表すことができる。

2.2.7 “应该”

情態動詞“应该”(ほかに“应该”と同じか意味が近い“应当”“应”“该”“当”などがある)は道義的モダリティの〔義務〕と認識的モダリティの〔蓋然性〕の二種類のモダリティを表す。

まず、道義的モダリティを見てみる。

“应该”は、話し手が文の表す事件が事実になるように聞き手に義務を発令し働きかけるという道義的モダリティを表す。呂叔湘(1980: 550)は“应该”のこの意味項目を「情理的にこうでなければならぬことを表す」とする。しかし、“应该”は“必须”との間に道義的の度合いの差が存在している。“应该”の道義的強さは“必须”より低い。例えば、“应该”は無条件に“不”によって否定されるが、最も程度の高い道義を表す“必须”はそうはいかない。それを否定するには条件が必要だ。ここでは、“应该”のこのような意味を概して〔義務〕とする。以下は道義的モダリティの〔義務〕を表す“应该”の用例である。

- (123) 你应该去！
きみは行くべきだ。
- (124) 我知道应该怎样去做。(张欣《梧桐梧桐》)
どうすべきか分かっている。
- (125) 这种人应该先枪毙后审问。(同上)
このような人間は尋問より先に銃殺すべきだ。
- (126) 即便这样，你也不应该去迎合她们。(张欣《岁月无敌》)
それでも彼女らに迎合すべきではない。

(123)～(126)の“应该”はいずれも〔義務〕という道義的な意味を表し、話し手は主語が文の表す事件(事柄)を実現させることを要求もしくは禁止することを表す。

次は“应该”の認識的モダリティを表す例を見てみよう。

“应该”は、話し手が主観的に事件の比較的高い可能性があると推断するという認識的モダリティの〔蓋然性〕を表すことができる。呂叔湘（1980: 551）は“应该”のそのような意味を「状況が必然的にこうであると見積もる」としている。即ち，“应该”を“必然”と解釈するが，“应该”と“必然”について言えば，“他应该来过了”と“他一定来过了”とでは、両者の確信の度合いが異なる。“应该”の確信の度合いは“必然，一定，肯定”よりも低い。したがって，ここでは“应该”の認識的モダリティを〔蓋然性〕とする。以下は“应该”が認識的モダリティの〔蓋然性〕を表す場合の用例である。

(127) 他们昨天动身的，今天应该到了。（呂叔湘用例）

彼らは昨日出発したのだから，今日着いているはずだ。

(128) 这是尼龙的，应该比较结实。（同上）

これはナイロン製だから，比較的丈夫なはずだ。

(129) 按《百家姓》顺序，大学生应该姓冯了，我们就叫他冯良才吧。（張賢亮《浪漫的黒炮》）

『百家姓』の順番だと，大学生は冯という苗字のはずだ。彼を冯良才と呼ぼう。

(130) 你应该看过她的诗。（錢鍾書《圍城》）

きみは彼女の詩を読んでいるはずだ。

(131) 这个时候，她应该正与她丈夫坐在旋转餐厅享受烛光圣诞大餐。（陶然《平安夜》）

今現在，彼女は夫と一緒に回転レストランでクリスマスディナーを楽しんでいるはずだ。

(127)～(131)の“应该”は、いずれも文の表す事件の事実性もしくは命題の真実性の〔蓋然性〕についての推断を表している。即ち，話し手が文の表す事件の事実性もしくは命題の真実性について極めて高い確信を持っているが，必然性までは達していない。

上述した通り，情態動詞の“应该”は道義的モダリティの〔義務〕と認識的モダリティの〔蓋然性〕を表すことができると言える。

2.2.8 “能”

“能”の意味についてはすでに多くの論考がある。

呂叔湘（1980: 367-368）は、(1) あることを行なう能力または条件がある。(2) あることをするのに長けている。(3) ある用途をもっている。(4) 可能性がある。(5) 情理的許可。(6) 環境的許可，と六つの意味があると分析している。

モダリティの意味的分類から見れば，前の三つは動力的モダリティ，(4)は認識的モダリティ，(5)，(6)は道義的モダリティとして見ることができる。

傅雨賢，周小兵（1991）は，“能”はある事を行なう能力；ある用途と条件；許可と当然；

ある種の可能性、の四つの意味に分けている。

黄郁纯 (1999) は吕叔湘 (1980) を踏まえて“能”の意味を、「個人的道義」、「潜在力」(可能性、条件・状況、潜在的可能性を含む)、「習性」と、三つにまとめている。氏は吕叔湘 (1980) の「情理的許可」と「環境的許可」を「個人的道義」とし、その理由に、「情理的許可」と「環境的許可」を明確な線引きが難しい、まとめることによって「意味の項目を簡略化できる」を挙げている。しかし一方、道義的モダリティの主観性と客観性の区別から考えると、「情理的許可」と「環境的許可」の区分はやはり理論的には意味があると考えられる。宋永圭 (2004: 35) が指摘したように、情理的許可と環境的許可に「心理的許可」と「客観的許可」で対応するものも考えられる。もちろん、その二つの意味は道義的由来こそ違え、「許可」としてまとめることもできる。氏の「潜在力」は吕叔湘 (1980) の (1)~(4) の意味を含んでいる。確かに (1)~(3) を一つにまとめるのは能力も条件も技能も用途も「物力」であり、「潜在力」でその三つの項目の一つにまとめるのは内在的合理性はあるが、(4) の「可能性がある」という項目も「条件・状況」と解釈し、「潜在力」に入れるのはやや理解し難い。それゆえ、黄郁纯 (1999) の“能”の意味分析には一般的とされる「可能性」という意味項目がない。

黄郁纯 (1999) の主張する「習性」の意味も、必ずしも一つの意味項目として成り立つとは限らない。氏が説明するのに用いた用例は次の (132) である。

(132) 毎年秋天，加拿大的枫叶总能吸引很多观光客。

毎年秋になると、カナダの紅葉は多くの観光客を引き付けている。

氏はこの文の“能”は「習性」(ある地方の特徴)を表していると考えている。その理由に、ここの“能”は「習性」を表す「会」に変えてもよいとしているが、本稿では氏がここで「習性」の意味を持つという結論を導きえたのは (132) の“能”の前に“毎年秋天”と“总”のような総称的な時間を表す語があることに由来していると考えられる。もしそれらの語を取ってしまうと、おそらく氏は「習性」という意味ではなく、“能”は一般的な [能力] を表す、すなわち「もみじ」の観光客を引き付けるという「能力」と考えたに違いない。

王偉 (2000) も“能”の意味について分析を行ない、能力、条件、許可、可能、意志・願望、命令の六つの意味があると考えている。しかし、氏の言う「意志・願望」、「命令」義は“能”の用いられる文の全体の意味に支えられているのであって、つまり「意志・願望」、「命令」は“能”が文中の他の成分と共に共起して初めて表れた一種の語用的効果に過ぎず、“能”自身が備える意味要素ではないと見なければならぬ。

宋永圭 (2004: 36) は、“能”の意味を動力的モダリティの [能力]、道義的モダリティの [許可] と認識的モダリティの [可能性] の三つにまとめている。モダリティの分類から見ると、“能”の意味を三つにまとめるのは内部的合理性がある。もちろん、[条件]、[用途]、

[能力] には、何ら違いも存在していないという意味ではない。以下“能”の三つの意味をそれぞれ見てみよう。

まず、“能”の表す動力的モダリティを見てみよう。

“能”は動力的モダリティの[能力]を表す。ここでいう[能力]とは以下の三つの意味を含む。

(一) [能力]。即ち「あることをする能力を有する」(呂叔湘1980: 367)

(133) 他能听懂英语了。(周小兵用例)

彼は英語が(聞いて)わかるようになった。

(134) 他的腿伤好多了, 能慢慢走几步了。(吕叔湘用例)

彼の脚の傷がだいぶ良くなり, ゆっくり歩けるようになった。

(135) 大概我也能教书。(阿城《孩子王》)

たぶん僕も教えることができる(先生になれる)。

(136) 能办到吗? (王朔《顽主》)

できますか。

これらの文の“能”はいずれも主語があることをする能力があることを表す。例えば“听懂英语”の能力, “走路”の能力, “教书”の能力, “办到”の能力。以下の文は呂叔湘(1980: 367)は, 「あることをするのに長けている」と考えているが, 実際はこれも主語の能力である。例えば

(137) 小崔太太虽是个寡妇, 可是她能洗能作能吃苦, 而且脾气模样都说得下去。

(老舍《四世同堂》)

崔夫人は未亡人だが, 洗濯や家事をするのが得意で苦勞も辞さない。それに性格も容貌も悪くない。

(138) 要是我动不了啦, 不能走不能笑只能吃喝睡, 你给我吃安眠药……

(王朔《永失我爱》)

もしおれが動けなくなり, 歩くことも笑うこともできないで食う, 飲む, 眠ることしかできなくなったら, 睡眠薬を飲ませてくれ。

(139) 孟良是那么友爱, 那么乐于助人, 他最能体贴人, 了解人。(老舍《鼓书艺人》)

孟良はあんなに親切で世話好きで, 彼は最も思いやりと理解のある人だ。

(140) 刘太太是个矮身量, 非常结实的乡下人, 很能吃苦。(老舍《四世同堂》)

劉夫人は背が低い, たいへん丈夫な田舎者で, 逆境に強い。

これらの文の“能”は「あることをするのに長けていることを表す」。その理由の一つに“能”の前に程度を表す“很”, “最”が付いているからと言える。しかし, “能”の前に“很”のような程度副詞が付いているからと言って「あることをするのに長けている」ということ

を表すとは限らない。

(141) 共同去做一件诡秘的事情最能增进友谊。(毕淑敏《阿里》)

同じたくらみを一緒に働くこと(同じ秘密を持つこと)は最も友情を深めることができる。

(142) 做梦最能梦见别人梦不到的事情。(老舍《老张的哲学》)

夢を見ることは人が夢にも思わないことを最も夢見ることができることだ。

この二つの文の“能”はいずれも前に“最”が付いているが、「あることをするのに長けている」という意味を表すのではなく、一種の能力があることを表す。

(二) [条件] 即ち「あることをする条件が備わっている」。“能”が表す「能力」は、あることをする[条件]について言うものがある。例えば

(143) 我不来, 片子就不能拍了。(周小兵用例)

私が来なければ映画の撮影ができなくなる。

(144) 因为缺教员, 暂时还不能开课。(吕叔湘用例)

教員不足のため、当分の間まだ授業を始めることができない。

(143)は「私が来る」という条件がないことは映画を撮影する[能力]がないことを導く。一方の(144)も「教員が足りない」事態から、授業を始める[条件]がないことを示す。

(三) [用途], 即ち「ある種の用途を表す」(吕叔湘1980: 368)。“能”はあるものの用途を表すことがある。しかし、物の力という面から見ると、それも物事の一種の[能力]であると言えよう。例えば、

(145) 大蒜能杀菌。(吕叔湘用)

にんにくは殺菌作用がある。

(146) 四百多块钱, 能花多少日子呢?(老舍《四世同堂》)

四百元はどれくらい持つか。

(147) 这个柜子里能藏个人。(毕淑敏《转》)

この箆笥は人が隠れ入る。

(148) ——它能治好我的病吗?

——不能, 它只能暂时改善你的肌无力现象。(王朔《永失我爱》)

——それはおれの病気を治すことができるか。

——できない。これはただ一時的にあなたの無筋力の症状を改善するだけだ。

これらの文は主語の(例えば)“大蒜”, “四百多块钱”, “这个柜子里”, “它”などのある

種の用途を表している。物の力の面から見ればこれらの物事の〔能力〕とも言える。

このように“能”の動力的モダリティの〔能力〕には〔能力〕,〔条件〕,〔用途〕と,〔能力〕と関係のある項目が三つ含まれているということになるが,ここではそれらを〔能力〕とする。

これから,“能”の道義的モダリティを表すケースを見てみよう。

“能”は道義的モダリティの〔許可〕を表すことができる。即ち呂叔湘(1980: 368)が述べたような「情理的許可」と「環境的許可」を表すものである。氏はその二つの意味の“能”の用いられる統語的環境を「疑問文と否定文に多用される」特徴があると指摘したうえ,対応する肯定文に用いられるのは“可以”であり,言い換えれば“不能”は“可以”の〔許可〕義の否定である。

「情理的許可」と「環境的許可」の区別は,おおむね道義的由来と関係あるため,容易に区別できないときがある。例えば,道義的由来は個人的権威からなら,普通「情理的許可」として表れる。一方ある種の法則に由来するならば「環境的許可」として表れるだろう。しかし,個人的権威と社会的規範は時として“能”の表す〔許可〕義において必ずしも明白な区別があるとは限らない。例えば“你不能在这儿抽烟”(ここでタバコを吸ってはいけません)という文を見たとき,情理上の禁止とも環境上の禁止とも取れる。したがって,二つの〔許可〕を一括りにするのは理にかなう。

次に“能”が表す〔許可〕という道義的モダリティの例を見てみよう。

(149) 我能走了吗?(电视剧《编辑部的故事》)

行ってもいいですか。

(150) 你怎么能这么说我呢?(王朔《一点儿正经没有》)

どうして私のことをそんな風に言うことができるの。(そんな言い方はやめて。)

(151) ——“不结婚的能不能去?”

——“不能”,小刘远远地说,“只能是预备役的新郎新娘”(王朔《永失我爱》)

——結婚しない人は行ってもいいですか。

——「だめ」,と劉さんは遠くから言った。「結婚予備役の新郎新婦しか行けないんだ。」

(152) 不能让这种现象继续下去了,决不能。(电视剧《编辑部的故事》)

このようなことを見過ごしてはいけな。決して。

(149)-(152)の“能”はいずれも〔許可〕を表す。(149)は話し手が聞き手に〔許可〕を乞う,(150)は反語の形で〔許可〕に対する否定,即ち禁止を行なう,(151)は“能不能”という反復疑問文で聞き手の〔許可〕を乞う。聞き手はまず“不”で許可を否定し,それから“只”で唯一の〔許可〕を与える,禁止は副詞で強調されることがある。例えば(152)

の“決不能”がそうである。

最後に“能”の認識的モダリティを見てみよう。

“能”は認識的モダリティの〔可能性〕を表すことができる。即ち呂叔湘（1980: 386）が述べている「可能性があることを表す」ものである。

(153) 有萝卜我们还能喝着？（电视剧《编辑部的故事》）

大根があるからのどが渴くはずがない。

(154) 你们能有什么正经事？（王朔《一点儿正经没有》）

きみたちまともな事なんかあるか。（……あるはずがない。）

(155) 瑞宣知道不能放了金三爷，低声地问李四爷：“尸首呢？”（老舍《四世同堂》）

瑞宣は金三爺を逃がすわけにはいかないとわかって、「死体は？」と李四爺に小さい声で聞いた。

(156) 你一个娘们家，能去过那地方？（霍达《年轮》）

きみのような女はそこに行ったことがあるか（……行ったはずがないだろう。）

(157) 酒嘛，怎能没酒味儿，你又憋着什么坏呢？（老舍《正红旗下》）

酒だから、匂いがないはずがない。お前はまた何か企んでいるのか。

(153)–(157)の“能”はいずれも認識的モダリティの〔可能性〕を表し、話し手は命題が真である可能性について推測する。例えば、(153)は“我们喝着”，(154)は“你们有正经事”，(155)は“放了金三爷”，(156)は“你去过那地方”，(157)は“酒没酒味”，などの命題に対して真である、または事件が真実になる可能性について推測を行なう。注意すべきは“能”は〔可能性〕を表す時、統語的環境が独特な特徴がある。即ち、〔可能性〕を表す“能”は一般的に、疑問文と否定文に現れる。

上述したように、情態動詞の“能”は動力的モダリティの〔能力〕、道義的モダリティの〔許可〕、認識的モダリティの〔可能性〕の三つのモダリティを表す。なかでは“能”が表す動力的モダリティの〔能力〕には、三種類の〔能力〕、即ち〔能力〕、〔条件〕、〔用途〕が含まれる。

2.2.9 “可以”

“可以”は、動力的モダリティの〔能力〕と、道義的モダリティの〔許可〕の二種類のモダリティを表すことができる。注意すべきは、今まで見てきた多義的情態動詞は認識的モダリティと非認識的モダリティ（動力的モダリティと道義的モダリティの二つを含む根源的モダリティ）の間での多義性であったが、“可以”は状況が違う。それは認識的モダリティと非認識的モダリティの間における多義性は見られず、根源的モダリティにおいての多義性しかないということである。即ち、動力的モダリティと道義的モダリティの間の多義性である。

もし認識的モダリティと非認識的モダリティの間における多義性で見ると、**“可以”**も単義的であるということになるが、根源的モダリティ内部の差異から見ると、**“可以”**も多義的情態動詞になる。

“可以”の意味については、数多くの先行研究がある。呂叔湘(1980: 302-303)は「可能を表す」、「ある種の用途がある」、「許可を表す」、「する価値がある」の四つを挙げている。

一つ目の「可能を表す」は、氏の挙げる例から見て、一種の条件であると言える。例えば、「这间屋子可以住四个人」(この部屋は四人住める)は「这间屋子」(この部屋)の容量を言い、前文で述べた「物力」の範囲に属す。「你明天可以来一趟吗?」(あなたは明日来られますか)も聞き手が「明日来る」条件が備わっているかどうかについて質問しているのであって、直接「可能性」について聞いているのではない。言い換えれば、話し手が発話時には、心理的な推測をしているのではなく、客観的に聞き手の「明日」来る「条件」についての情報を得ようとしているのである。そのことは**“可以”**の否定が**“不能”**であることからわかる。「我明天有事，不能来了」(私は明日用事があるので来られなくなりました)の**“能”**も[条件]から言っている。即ち「明日用事がある」から、来る[条件]が備わっていない。二つ目の「ある種の用途がある」も、物力の範囲に属す。一つ目の「条件」とともに[能力]とすることができる。一方、**“可以”**が表す一般的な[能力]、即ち人或いはその他の有生物の本能または後天的に獲得したある種の能力については、呂叔湘(1980)は言及していない。

刘月华ら(1983: 113-114)は**“可以”**は「主観的・客観的条件が、あることをするのを許可する」、「『許可』或いは条理上の許可」、「する価値がある」と、上記三つの意味を表すとしている。

傅雨贤、周小兵(1991)も**“可以”**は「何かをすることを客観的に許可する」、「許可或いは条理的当為」、「何かをすることの価値がある」との三つの意味を表すと考えている。刘月华(1983)と傅雨贤、周小兵(1991)による**“可以”**の意味の説明は呂叔湘(1980)に対する調整に過ぎないと言ってもよい。

鲁晓琨(2001)は**“可以”**は「許容の範囲」という核心的な意味を持ち、その下位の意味として「許容範囲」の三つの指向があると主張している。その三つの指向は、(一)文中の主語指向、即ち、文中の動作・行為が主語の「能力範囲」、「用途範囲」、「動作範囲」に属する；(二)文外の条理的指向、即ち条理的許容である；(三)話し手指向、即ち話し手の許容範囲であるが、これをさらに外在的許容、即ち話し手が相手があることを行なうのを許容することと、内在的許容、即ちある行為が話し手の意識において許容される範囲に属することに分けている。上記三つの文献で**“值得”**(する価値がある)としたものをこの項目に入れ、**“值得”**は、「内在的許容」、即ち話し手が**“可以”**を提案や忠告に用いるのであると考えている。し

かし、氏の“可以”についての分析はまだ検討の余地が多く残っている。例えば、“可以”は一つの核心の意味を持つかどうか。もしあるなら、その核心義が何か、その核心義は下位の語義を十分にカバーできるか。氏の分析は少し主観的である感がしなくもない。学者によって分析の角度と方法が異なるため、導く結論も当然異なってくる。氏は“许可”（許可）義を情理的許容と話し手許容に分けているが、理論的な意味を持っている一方、具体的な運用となるとやはり難しい。

以下は、まず“可以”の動力的モダリティの〔能力〕を表す場合を見てみよう。

“可以”の表す〔能力〕は、吕叔湘（1980）が言う「可能を表す」と「ある種の用途がある」、刘月华（1983）と傅雨贤、周小兵（1991）が言う「客観的条件が何かをすることを許容する」という意味である。さらに分けると、以下のようなケースがある。

（一）有生物が主語である場合の能力または技能を表す。例えば

(158) 我可以控制。（王朔《痴人》）

私はコントロールできる。

(159) 我发现他没有任何力量，我完全可以左右他。（毕淑敏《预约死亡》）

私は彼の無力に気が付いた。私は彼を完全に支配できるのだ。

(160) 我完全可以养活你嘛。（电视剧《北京人在纽约》）

私は十分あなたを養うことができるよ。

(161) 那太好了，哪天我落水你就可以救我了。（王朔《动物凶猛》）

それはよかった。いつか私が落水したら助けてもらえる。（あなたは私を助けることができる）

(158)–(161)の“可以”はいずれも主語がある事をするだけの能力または技能がある、という意味を表す。例えば、“控制”（コントロールする），“左右他”（彼を左右する），“养活你”（あなたを養う）の能力がある，“救我”（私を助ける）の技能がある。

（二）“可以”は主語がある事をする条件を備えていることを表す。

(162) 王一生说他可以找到睡觉的地方。（阿城《棋王》）

王一生は寝るところは見つかる（寝るところを見つけることができる）と言った。

(163) 王一生，你可以参加比赛了。（同上）

王一生さん、あなたは試合に参加することができるようになった。

(164) 死亡不可避免，疼痛却是完全可以避免的。（毕淑敏《预约死亡》）

死は避けることができないが、苦痛は避けることが充分にできる。

(165) 孩子可以把一切不快统统向大人倾泄，大人呢？（肖复兴《今冬无雪》）

子供はすべての嫌なことをそのまま大人にぶつけることができるが、大人は？

(166) 我很彷徨，很茫然，没人可以商量。(王朔《空中小姐》)

私はたいへん迷い、たいへん茫然としている。相談できる人はいない。

(162)–(166) の“可以”は、いずれも主語がする条件を備えていることを表す。例えば、(162)は“王一生”が“找到睡觉的地方”(寝るところを見つける)の条件を、(163)は“你”(あなた)が“参加比赛”(試合に参加する)の条件を、(164)は“完全避免疼痛”(苦痛を十分に避ける)の条件を、(165)は“孩子”が“把一切不快统统向大人倾泄”(すべての嫌なことそのまま大人にぶつける)の条件を、(166)は“商量”(相談する)の条件を、備えていることを表す。それらの文はいずれも主語にある事をする客観的外在的な条件を備えているのであって、主語の内在的な能力や技能とは無関係であることを表す。

(三) “可以”は主語の[用途]を表す。

(167) 有什么东西可以吃吗？(王朔《过把瘾就死》)

何か食べるものはありますか。

(168) 这是草莓，去污用的，不过可以代替醋。(阿城《棋王》)

これはイチゴで、汚れ落としに使うが、お酢の代わりになる。

(169) 我随身带着很多袋子，可以装东西。(毕淑敏《雪花糯米粥》)

私はたくさん袋を持ち歩いている。入れ物になる。

(170) 徐一鸣的这沓枕巾，也可以做药引子了。(毕淑敏《补天石》)

徐一鸣のこの枕カバーの束は薬の補助にもなるよ。

(171) 实际上，有些钥匙可以开不少的锁，如果加上耐心和灵巧甚至可以开无穷的锁——比如“万能钥匙”。(王朔《动物凶猛》)

実際、たくさんの錠前を開ける鍵がある。もしさらに根気と器用さが加わると、無限の錠前を開けることさえある。——それは例えば「万能の鍵」だ。

(167)–(171) の“可以”はいずれも主語にある用途が備わることを表す。例えば(167)の“东西”(もの)は“吃”(食べる)の用途、(168)の“草莓”(イチゴ)は“代替醋”(お酢替わり)の用途、(169)の“袋子”(袋)は“装东西”(物を入れる)の用途、(170)の“枕巾”(枕カバー)は“做药引子”(薬の補助をする)の用途、(171)の“钥匙”(鍵)は“开锁”(錠前を開ける)の用途、などである。これらの文の主語はいずれも無生物であるため、当然、一般的に言うところの「能力」を持っていないはずだが、世の中の万物は用途こそ違えどそれぞれ用途がある。それがいわば物力である。この意味から、用途も物の一種の能力である。

以上の分析から“可以”は、三種類の[能力]を表すことができると言える。即ち有生物、特に人間の能力と技能、主語がある事を従事する条件、無生物の主語が備わるある種の用途、である。ここで、“能”の[能力]義も、[能力]、[条件]、[用途]の三つの下位概念

を持っていることが想起される。実際、こられの文の中の“可以”は“能”と置き換えることができることは多くの文献によって指摘されている。一方、呂叔湘（1980）、刘月华（1983）、傅雨贤、周小兵（1991）などにおいても、この種の〔能力〕を表す“可以”はその否定形は“不可以”ではなく“不能”であると指摘している。しかし、その場合の“可以”と“能”は置き換えてもいいとはいえ、“可以”が表す〔能力〕と“能”が表す〔能力〕とは本当は違う。“能”は主語の働き掛けで、ある事をする事を実現させるが、一方、“可以”はある事をする能力を実現させるのに妨げがないことを表す。

それから、以下は道義的モダリティの〔許可〕を表す“可以”のケースを見てみよう。

“可以”は道義的モダリティの〔許可〕を表す。即ち、呂叔湘（1980: 302）が言う「許可を表す」、刘月华（1983）が言う「『許可』または情理的許可を表す」、傅雨贤、周小兵（1991）が言う「許可または情理的当為を表す」、である。例えば

- (172) 你可以回去了。(毕淑敏《昆仑殇》)
きみ、帰っていいよ。
- (173) 吃多少都可以？(毕淑敏《最后一支西兰地》)
いくら食べてもいいですか？
- (174) 我可以不被爱，但我不能被人嫌。(张欣《梧桐梧桐》)
愛されなくてもいい。でも、嫌われてはいけない。
- (175) 有这张单子，您可以看一看。(毕淑敏《非正式包装》)
この伝票があります。ご覧になってもいいです。
- (176) 怎么可以要东西呢？(肖复兴《啊，老三届》)
ものをもらうわけにはいかない。
- (177) 婚姻可以解除，协议可以撕毁，承诺可以推翻。(王朔《过把瘾就死》)
婚姻は解除してもいい。契約は破ってもいい。約束は裏切ってもいい。

(172)–(177)の“可以”はいずれも「許可」を表す。即ち、話し手が主語に、ある事を行なうことに対して許可を与えることによって、主語は文の表す事件を真にすることができる。例えば、“你回去”（あなたが帰る），“吃”（食べる），“不被爱”（愛されない），“看”（見る），“要东西”（ものをもらう），“解除婚姻，撕毁协议，推翻承诺”（婚姻を解除する，契約を破る，約束を裏切る）などを許可する。

呂叔湘（1980）も刘月华（1983）も傅雨贤、周小兵（1991）も“可以”には“值得”（する価値がある）という意味があると考え、以下の例文を挙げている。

- (178) 这个问题可以研究一番。(吕叔湘用例)
この問題は研究する価値がある。
- (179) 这本书写得不错，你可以看看。(刘月华用例)

この本はなかなかよく書けている。一読する価値がある（一読してみるといい）。

(180) 这个经理可以采访采访。(周小兵用例)

その社長は取材してみる価値がある。

上に挙げた文献では、上記の文に用いられる“可以”は“值得”（する価値がある）を表していると考えている。その原因に“可以”を“值得”と置き換えられるからと考えられるが、一方、それらの文の“可以”は、裏返せば、ある事を行なうのを「許可」するのであって、言い換えれば、ある事をするのに妨げがない、悪くない。そのため、「許可」するのであり、それがまさに“值得”の意味しているところと考えることができる。したがって、“可以”の“值得”義を[許可]に入れてもよい。或いは、“可以”に“值得”義があるという見方を保留するならば、その意味を道義的モダリティに入れればよい。

魯晓琨（2001）は“值得”を表す“可以”は、次のような用例と同じような分析をされるべきだと考えている。

(181) 你可以叫出租车。(鲁晓琨用例)

タクシーを呼んでもいい。

(182) 人到齐了，咱们可以开始了。(同上)

全員揃ったから、始めてもいい。

氏は、それらの文は「相手にある事をするように提案または勧誘する」ものであり、「“值得”は話し手の認識上、許容範囲に入る理由の一つになっている。つまり、話し手は“值得”（する価値がある）と考え、提案または勧誘するのである。例えば、“可以叫出租车”を提案するのは、話し手がしてもいい方法として考えるから」としている。その説明は基本的に合っていると言えよう。

以上見てきた通り、“可以”は動力的モダリティの「能力」と道義的モダリティの「許可」の二種類のモダリティを持っていると考える。

2.3.1 多義的情態動詞にみられる典型性の違い

中国語の情態動詞に単義性と多義性の違いがある。単義的情態動詞に“敢”、“肯”、“想”、“必須”、“必然”、“可能”などがあるが、なかでは“敢”は“敢是”、“想”は“想是”の場合、推測を表すため、多義的と見てもよいが、その用法が限られているので、単義的情態動詞として見る。

これまで、9つの多義的情態動詞——得(děi)、一定、肯定、准、要、会、应该、能、可以——を見てきた²⁾。なかでは、“可以”は根源的モダリティにおける多義性しか見られず、認識的モダリティと根源的モダリティの間の多義性が認められなかったため、非典型的な多義情態動詞であると言ってよい。

それから，“得 (děi)，一定，肯定，准”については，根源的モダリティと認識的モダリティの間で多義性を持っているとはいえ，実際の使用頻度に著しい開きがある。例えば，“得 (děi)”の認識的モダリティの解説を獲得するのに，特別な構文条件の支持を必要とする。“一定”も道義的モダリティの解説を獲得するのに，認識的モダリティを表すときよりも多くの制限がある。また“肯定”と“准”に関しても似たような特徴が見られる。その意味から，それらは比較的典型的多義情態動詞であると言える。

一方，“要，会，应该，能”の根源的モダリティと認識的モダリティの間におけるモダリティの意味は，その使用例は比較的均衡な分布を見せており，異なるモダリティの解説を得るための構文条件も備わっている。その意味では，それらの情態動詞は現代中国語において典型的多義性を持つ情態動詞であると言える。したがって，これから以下の論考では，その4つの多義情態動詞を主な観察対象とし，それぞれの情態動詞と他の文法的カテゴリーとの相互関係を分析する。もちろん，必要に応じ比較的典型と非典型的多義情態動詞にも言及することができる。

2.3.2 現代中国語の情態動詞の表すモダリティの意味体系

以上の分析を総合し，現代中国語の情態動詞の表すモダリティの意味体系を下表にまとめる。

情態動詞の表すモダリティの意味体系

種類	意味	語用的用語	意味	語用的用語	意味	語用的用語
認識的モダリティ	[必然]	[推定] 必然，肯定，一定， 准，得，要 [仮定] 要	[蓋然]	[推断] 会，应该 (应当，应，该，当)	[可能]	[推测] 可能，能 (能够)
道義的モダリティ	[必要]	[命令] 必须，得 [保証] 肯定，一定，准	[義務]	[指令] 应该，要 [約束] 会	[許可]	[許可] 能，可以，准，许 [承諾] 可以
動力的モダリティ	[能力] 可以 [意志・願望] (強) 要 [勇氣がある] 敢	[能力] (恒常的) 会	[意志・願望] (受け身的)： 肯	[能力] 能 [意志・願望] (普通) 想，愿意		

表について，若干説明する必要がある。

一つ目は，語義と語用の意味について，例えば，認識的モダリティを取って見れば，一般

的に[必然(性)], [蓋然(性)], [可能(性)]のように, 三つの異なるレベルの意味を持っている。[必然(性)]に対応する語用的な意味は[推定]または[仮定]で, [蓋然(性)]に対応するのは[推断]で, [可能(性)]に対応するのは[推測]である。また, 道義的モダリティにも三つの異なるレベルのモダリティがある。それは[必要], [義務], [許可]であり, それぞれに対応する語用的な意味は, [命令]または[保証], [指令]または[約束], [許可]または[承諾]である。

二つ目は, [能力]と[意志・願望]は強弱の度合いに明確なレベルの差が存在するかどうかの問題である。表では存在しているように見えるが, [能力]と[意志・願望]を表す“要”と“可以”のように, 自身の否定形ではなく, “不想”, “不能”と相補的否定形式を用いることから, その2つが最高のレベルにあることがわかる以外, 他の語についてはそのレベルはそれぞれが位置する場所にあることの十分な根拠はまだ示すことができない。表中の配列はそれぞれの意味に対する一種の直観的な認識に過ぎないことを断っておきたい。

情態動詞の多義現象は二つの異なる認識と処理方法があり, 多義観という見方は比較的言語の実態に即している。現代中国語の情態動詞の多義性は英語と比べて特徴的である。現代中国語の情態動詞のメンバーには単義情態動詞, 多義情態動詞のように単義性と多義性の不均衡現象が見られる。単義性または多義性を持つ情態動詞について詳しく分析することによって多義情態動詞においても典型性の差があり, “要, 会, 应该, 能”が典型的な多義情態動詞であることが明らかになった。そして以上のように現代中国語の情態動詞の表すモダリティの意味体系の提示を試みた。それによって現代中国語の情態動詞が表すモダリティの一端を示すことになれば幸いである。

注

- 1) 前号(40号)に続き, 第三節の後半部分(pp. 141-161)である。便宜上, 章, 節の番号は調整してある。また, 例文の番号がずれがあったため, 前号に掲載した翻訳文で修正した番号に続くものになる。なお, [解題]については, 拙訳「彭利貞 中国語情態動詞の表すモダリティ—情態動詞のカテゴリーとその位置づけ—」(2018)愛知大学『言語と文化』No. 38と同一書物のため, そちらと重複する部分もあるが, 合わせてご参照されたい。
- 2) 前号(40号)に続いて, 今号掲載の本稿は“会”からの4つを扱った。前5つは40号の同訳を参照されたい。